

「公印省略」

27 農 林 試 60 号
平成 27 年 4 月 2 日

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第 1 号

麦類赤かび病の防除について

麦類の赤かび病対策は出穂期後の適期に防除することが効果的です。本年産の麦類の出穂期は平年より早まると予想されていますので、赤かび病の防除時期を失しないよう、適期防除に努めてください。

- 1 対象作物：小麦、大麦
- 2 病虫害名：赤かび病
- 3 生育状況および気象情報
 - (1) 3月23日、農林業総合試験場発表の麦類の出穂期は、11月中旬は種の小麦および11月下旬は種の大麦で、今後の気温が平年並で経過した場合、平年より2~4日程度早いと予想されている(第1表)。
 - (2) 福岡管区気象台の1か月予報(3月26日発表)によると、向こう1か月の平均気温は1週目(3/28~4/3)は平年より高く、2週目(4/4~4/10)は平年並か低く、3~4週目(4/11~4/24)は平年並か高いとされている。また、降水量はほぼ平年並とされている。

第 1 表 農林業総合試験場における麦類の出穂期 (平成 27 年 3 月 23 日発表)

麦種	品種名	播種期	予想出穂期	平年差	前年差	調査地点
小麦	シロガネコムギ	11/20	4/5	-3	-3	大木町
	チクゴイズミ		4/9	-2	-2	筑紫野市
	ちくしW2号 (ラー麦)		4/5	-2	-2	大木町
			4/8	-2	-2	筑紫野市

大 麦	ほうしゅん	11/25	4/9	-2	±0	筑紫野市
	しゅんれい		4/9	-3	+1	筑紫野市
	はるしずく		4/2	-4	±0	大木町

注1) 平年値はH16～H25年播の平均値。

注2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

注3) ちくしW2号(大木町)、ちくしW2号(筑紫野市)、しゅんれい、はるしずくの平年差はそれぞれ、前6年、前5年、前5年、前7年の平均を示す。

注4) 予想出穂期は今後の気温が平年並で推移した場合の出穂期。

過去の播種期および出芽期から出穂期までの積算温度とこれまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。

4 防除対策

- (1) 小麦の防除適期は開花期(出穂期後7～10日頃)～開花最盛期である。
- (2) 二条大麦の防除適期は、穂揃期の約10日後(出穂期後12～14日、蒴殻が抽出し始める頃)である。
- (3) 裸麦の防除適期は、穂揃期(出穂後2～4日頃)である。
- (4) 降雨が続き、多発が予想される場合は、第一回目防除の7～10日後に補正防除を行う。
- (5) 出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等により異なるので、第1表を参考に、ほ場ごとの出穂状況を把握し、適期防除に努める。
- (6) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果が低下するので、降雨情報に注意する。
- (7) 防除に当たっては、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。